

資料1

第6次和泉市総合計画 （骨子案）

目 次

計画の概要-----	01
計画策定の背景-----	03
めざすべきまちの姿-----	06
本計画の体系-----	10

資料編

計画の概要

【第1節】 総合計画策定の目的

和泉市では、昭和 48 年(1973 年)に「にんげん回復のまちづくり」の実現を目標に、行政運営の総合的な指針として総合計画をはじめて策定しました。その後、第2次計画から第4次計画を経て、平成 28 年(2016 年)には、「第 5 次和泉市総合計画」を策定し、「定住志向の向上」と「交流人口の拡大」をめざしたまちづくりに取り組んできました。

この間、本市においては、和泉市立総合医療センターをはじめ、中央消防署や消防本部の整備、市役所新庁舎の建て替えなどにより都市基盤を充実させてきたほか、施設一体型義務教育学校(小中一貫校)の整備、こども医療費助成の拡充など教育・子育て環境の充実、高齢者のおでかけ支援事業等による高齢者の社会参加促進のための支援など、時代の潮流を踏まえながら市民にとって暮らしやすいまちとするための施策を推進してきました。

しかしながら、近年、本市の人口は減少傾向にあります。平成 27 年に策定した「和泉市人口ビジョン」では、上位・下位の2つの推計を示し、上位推計の達成を目標に取り組んできたものの、実際にはその中間の水準を推移する結果となりました。また、この総合計画の検討にあたり策定した令和6年度版の人口ビジョンにおいても、今後人口は大きく減少し、特に生産年齢人口の減少と高齢者人口の増加により、高齢化率は急速に上昇していくことが予測されています。

今後、本市をとりまく社会経済環境は、DXをはじめとする情報通信技術の急速な進展やグローバル化により大きく変化することが見込まれます。それに伴い、今以上に市民のライフスタイルも多様化・複雑化するため、行政には変化に迅速かつ柔軟に対応することが求められ、各政策分野における個々の計画の重要性は一層高まっています。

このような状況のもと、新たな総合計画の策定にあたっては、既存計画の単なる見直しではなく、本市の特性を深く理解し、既成概念にとらわれないことはもちろん、行政運営の効率化に資するものとする必要があります。そこで、総合計画に市の事業を網羅するのではなく、具体的な事業は政策分野ごとの個別計画に定め、総合計画はそれらの方向性を示す基本目標や施策等に特化することで、複雑化する社会情勢や多様化する市民ニーズに対し迅速かつ柔軟に対応することをめざします。そして、本市のめざすまちづくりを市民に分かりやすく示し、市民が愛着と誇りを持ち、共に発展していけるような「まちづくりの大きな方向性を示す羅針盤」としてここに第6次総合計画を策定します。

【第2節】 計画の期間と構成

（1）計画の期間

第6次和泉市総合計画の計画期間は、令和8年度（2026年度）を初年度とし、令和15年度（2033年度）までの8年間とします。

（2）計画の構成

第6次和泉市総合計画は、「将来都市像」、「基本目標」、「施策」で構成し、本市のめざすべき将来都市像に向けて実施していく施策の方向性を示します。

具体的な事業については、本計画で示す施策方針を受け、各種の個別計画で示します。

<将来都市像>

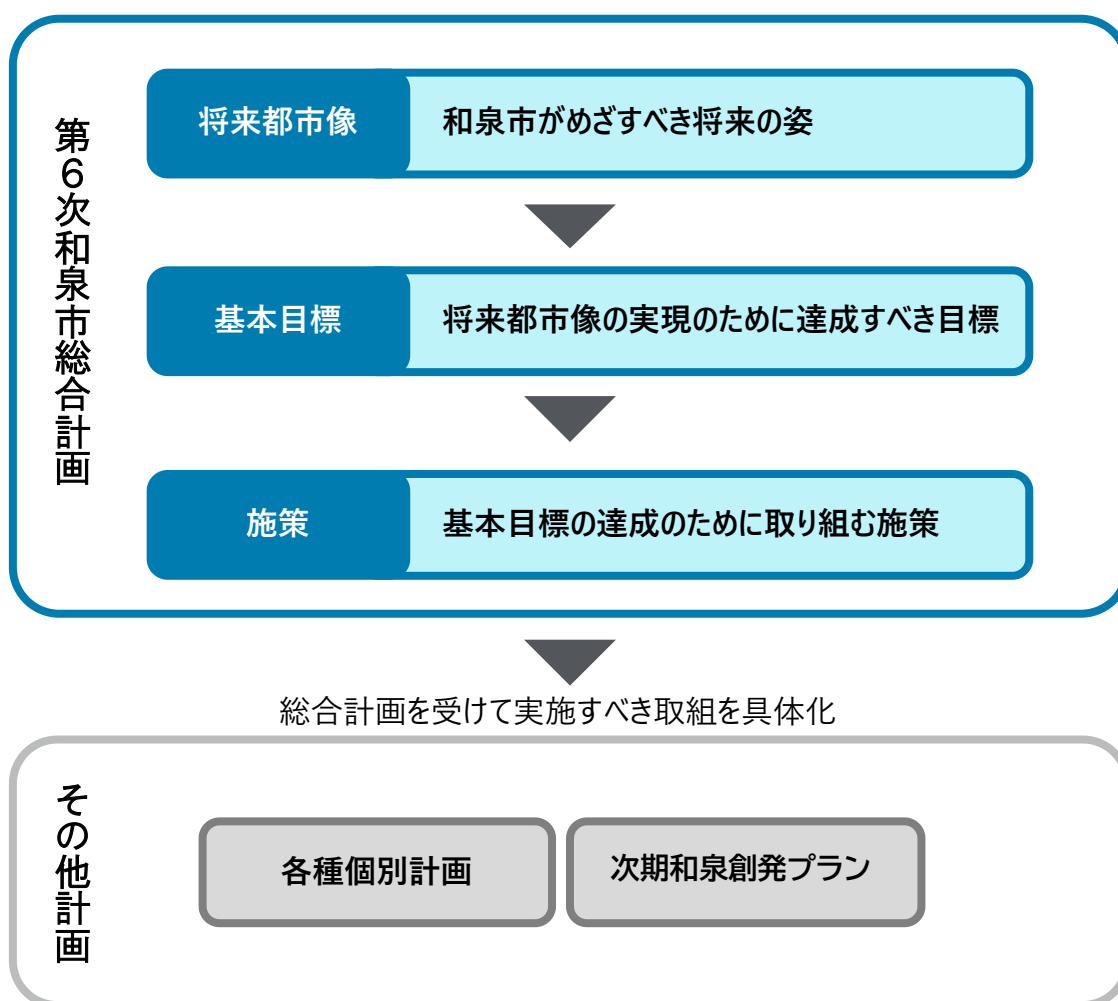
8年間の計画期間で和泉市がめざすべき将来の姿を示します。

<基本目標>

将来都市像の実現のために達成すべき目標を示します。

<施策>

基本目標を達成するために取り組む施策の方針と、施策ごとの数値目標を示します。



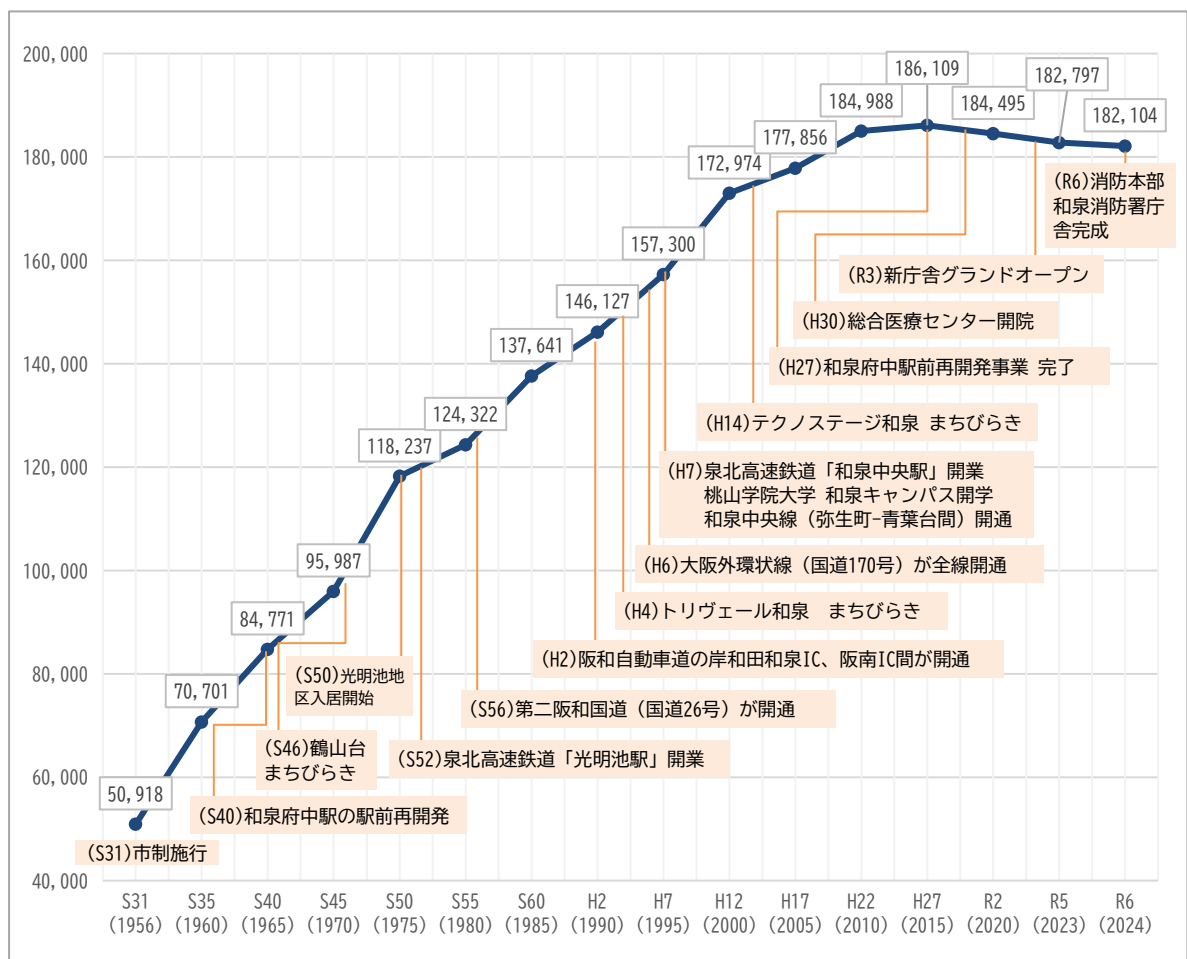
計画策定の背景

【第1節】和泉市の歩み

本市は、大阪府南部の泉州地域に位置し、東西 6.9 キロメートル、南北 18.8 キロメートルと細長く、面積 84.98 平方キロメートル、南は和泉山脈和歌山県境、北は堺市、高石市に、西は泉大津市、岸和田市、忠岡町に、東は河内長野市に接しています。

本市は、昭和 31(1956)年に市制が施行されて以降、第2次ベビーブームや「鶴山台団地」、「トリヴェール和泉」のまちびらきなどにより人口を増加させ、平成 7(1995)年 4 月には「和泉中央駅」が開業し「桃山学院大学」が開学するなど、着実な都市開発を進めてきました。その後も「テクノステージ和泉」の開発などのまちづくりを進め、平成 27(2015)年のピーク時には人口が約 18 万 6 千人となりました。近年は全国的な傾向と同様、人口は減少傾向にありますが、和泉市立総合医療センターや市役所新庁舎、消防本部・消防署新庁舎の整備など、よりよい暮らしのためのまちづくりを進めています。

グラフ 本市の人口の推移（単位：人）



国勢調査による 10 月 1 日人口

ただし、昭和 31 年は 9 月 1 日(市制施行日)現在で外国人を除いた人口

また、令和 6 年は 9 月 30 日現在の住民基本台帳人口

【第2節】本市をとりまく時代潮流

(1) 人口の変化

わが国の総人口は、平成 20(2008)年をピークに減少局面に入っており、令和5(2023)年時点で約 1 億 2,435 万人と、ピーク時から約 2.9%減少しており、今後も減少を続ける見込みとなっています。

全国的に人口減少・少子化・高齢化が進むことにより、医療、介護、教育など様々な分野における人材不足が課題となるほか、地域の人口が減少することによる地域経済の低迷が予想されます。また、高齢者の増加により国における医療・介護等の社会保障費が増大すれば、地方交付税制度をはじめとする国から地方への財政支援の減少が想定されるなど、本市にも様々な影響を及ぼす可能性が考えられます。

(2) 物価高騰

わが国の消費者物価は、戦後の高度経済成長やバブル経済を経て大幅に上昇したのち、1998 年以降デフレ経済期に突入してからは大きな物価高騰はなく、横ばいで推移してきました。しかし、近年、新型コロナウイルスによる経済混乱からの回復やロシアによるウクライナ侵攻に起因するエネルギー、原材料価格の高騰、円安による輸入コスト増加など複数の影響により、令和3(2021)年以降大幅に高騰しています。こういった物価高騰は、市民の日常生活に大きな影響を与え、生活困窮や消費の抑制などにつながっているほか、建設コストの高騰など、地方公共団体における公共事業においても大きな影響を与えています。

(3) 防災対策の機運の高まり

近年、能登半島地震をはじめとした地震津波や、台風豪雨、土砂災害など、自然災害が多く発生しています。また、南海トラフ巨大地震への対策として、防災対策への機運は年々高まっています。

地方公共団体においても、公共施設やインフラ設備の老朽化対策、耐震化対策や地域防災のあり方の検討など、有事を見据えた様々な対策が求められています。

(4) カーボンニュートラルへの機運の高まり

国においては、令和 2(2020)年 10 月、「2050 年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち 2050 年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現をめざす」ことを宣言し、令和3(2021)年 10 月には、地球温暖化対策計画を閣議決定し、令和 12(2030)年度において温室効果ガスを平成 25(2013)年度比で 46%削減することを目標として掲げました。さらに、令和7年2月には令和 22(2040)年度に同比 73%削減する目標を国連気候変動枠組み条約事務局に提出しています。

カーボンニュートラルへの機運は地方公共団体においても高まっており、令和 7(2025)年 3 月時点では、和泉市を含む合計 1,161 自治体が「2050 年までに二酸化炭素排出実質ゼロ」を表明しています。

(5) デジタル技術の活用による地方創生

近年、AIをはじめとするデジタル技術が日々発展を遂げており、社会をとりまくデジタル技術は目まぐるしく変化しています。国においては、令和 3(2021)年に、デジタル社会をけん引し、未来志向のデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進する組織としてデジタル庁が発足したほか、令和 4(2022)年 12 月には、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定(令和 5(2023)年 12 月改定)し、デジタル技術の活用による地方の社会課題の解決、地方活性化の実現を図っています。

地方においても、働き手の不足や過疎地域への行政サービスの提供など、人口減少による様々な課題に対する対応としての DX の推進が求められています。今後、ますますの発展が見込まれるデジタル技術を柔軟に取り入れ、社会課題の解決、地方の魅力向上に努めていくことが重要です。

(6) ウェルビーイング(Well-being)の重要性の高まり

ウェルビーイング(Well-being)は、「身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること」を意味する言葉であり、一人ひとりが、身体的に健康であるだけでなく、様々な人や社会とのつながりの中で心豊かに幸福を実感できることを表す概念です。人々の価値観の変容により、経済的な豊かさを示す GDP だけでは計測できない個人の主観的な豊かさに注目が集まり、近年、重要な価値基準となりつつあります。

地方公共団体においても住民のウェルビーイングを高める取組の重要性が増しており、様々な施策分野においてウェルビーイングの概念が導入され始めています。

めざすべきまちの姿

【第1節】 将来都市像

和の心でつなぐ **安全安心**で魅力あふれるまち **和泉**

「和」の文字には、和泉市に息づく温かい人々のつながりや、多様性を認め合う調和の精神、そして誰もが共生できる社会への願いを込めました。市名から1文字取ること、地域への愛着や誇りも表現しています。また、市民アンケートでも重要度の高かった「安全安心」は、災害や犯罪から身を守る身体的な安全はもちろん、孤独や困窮といった不安からも守られる心理的な安心感を意味します。「魅力あふれるまち」として、市民が愛着と誇りを持ち、訪れる人々を惹きつける活気に満ちた和泉の未来を追求します。

住めば住むほど**好き**になる **ちょうどいい**まち **和泉**

ライフスタイルの変化が進み、人とのつながりが希薄になりがちな現代において、市民一人ひとりが心から愛着と誇りを持てる和泉市をめざします。住むほどにその魅力が発見され、誰もが好きになれるまちへ。この「ちょうどいい」という言葉には、都会の利便性と豊かな自然が調和する本市の地理的特徴に加え、市民が心身ともに無理なく、心地よい「近すぎず遠すぎず」の距離感で繋がり、安心して生活できる環境への願いを込めています。誰もが個性を輝かせ、共に豊かな未来を創り上げていける和泉市を追求していきます。

「らしさ」を育む**和**のまち **和泉** ～住みよさと活力がずっとつづくまち～

「らしさ」を育む和のまち和泉には、市民一人ひとりが心身ともに満たされた状態（Well-being）を実感できる未来への願いを込めました。市名にも通じる「和」の精神を大切にすることで、多様な人々が互いを認め合い響き合う「調和」を育み、人や地域の「輪」を広げ、ともに支え合う「共生社会」を築きます。若者も高齢者も誰もが社会の「主役」として「自分らしさ」を発揮し、この温かい「輪」の中で活力が生まれることで、持続的な「住みよさ」へと繋がります。こうしたまちの営みが、持続可能な和泉の未来を築いていきます。

【第2節】まちづくりの基本目標

将来都市像の実現に向け、めざすべきまちの目標を以下のとおり設定します。

基本目標1 居心地よさを実感できる、住み続けたいと思えるまちの実現

本市の強みである良好な住環境・自然・産業を活かし、誰もが憧れ、住みたいと思うような、居心地よく住み続けることができるまちをめざします。出産・子育てしやすい環境づくりや、生活に欠かせないインフラの整備、都会と自然が調和したまちづくりに取り組みます。また、企業や産業の活性化により、雇用とつなげ、働く場所の拡充による多様な生き方の実現にも取り組みます。また、文化施設等の充実により市の魅力づくりに取り組みます。

基本目標2 安心して自分らしく過ごすことができるまちの実現

誰もが心身ともに健康で、人権が尊重され、安心して自分らしく活躍できるまちをめざします。自然災害や様々な危機事象が起こった場合でも、市や関係機関、市民が連携しながら、適切かつ迅速な対応を行い、安全・安心が確保されるように取り組みます。また、緊急時だけではなく、日々の暮らしにおいても、誰もが尊重され、困ったときには相談でき、支援が受けられるような仕組みづくりに取り組みます。

基本目標3 互いに助け合い、学び、市民がまちを創るまちの実現

生涯学習や文化振興、市民活動をきっかけに本市への誇りや愛着を醸成し、市民自らがまちの担い手として活躍できるまちをめざします。新たな価値観や世界に触れ、社会や地域に貢献できるように、子どもから高齢者まで、広く学びの機会を提供します。市民それぞれが主体性をもって、お互いに尊重しあい、困ったときには快く助け合えるまちづくりを推進します。

基本目標4 いつまでも安定した行政サービスを提供できるまちの実現

人口動態や世情の変化を捉え、その時々ニーズに沿った施策や事業を行うことのできる持続可能なまちをめざします。財政状況のさらなる改善のため、財政状況に応じた効率的・効果的な行政運営を行い、施設の複合化や民間活力等を用いて、公共施設の量と質の最適化を図ります。また、時代の潮流を踏まえてデジタル技術なども活用した業務改革に取り組むとともに、変革を生みだす人材を育成します。

【第3節】 横断的な視点

本市が、まちづくりの目標達成に向けて政策を実施するにあたり、政策横断的に持つべき3つの視点を設定します。

(1) デジタル技術の活用によるチャレンジングな政策実施

今後の急速な技術革新に順応し、行政サービスに柔軟にデジタル技術を取り入れていくことは、行政サービスの効率化、市民の利便性向上に資するものであり、すべての政策にとって重要なこととなります。

本市では、政策の実施にあたり、既存の手法や従来の価値観にとらわれず、デジタル技術の活用を積極的に検討し、市民にとってよりよい政策にチャレンジしていきます。

(2) 協働によるまちづくり

人口が減少し、一人ひとりの価値観が多様化している現在においては、地域課題や市民ニーズも複雑化しており、従来の行政主導のまちづくりではすべてに対応していくことは困難になりつつあります。よりよい和泉市を作り上げていくためには、行政のみでなく、市民や団体、事業者等がそれぞれ和泉市の将来を自分事として捉え、まちづくりに参画していくことが重要です。

本市では、多様な主体により和泉市を作り上げていけるよう、既存の枠組みや組織の垣根を越えたまちづくりに参加しやすい環境や仕組みを検討し、地域の力を活かしたまちづくりに取り組みます。

(3) 持続可能な都市経営

人口減少による税収減少や人件費の高騰、物価高などにより、市の財政状況がますます厳しくなっていくことが想定されます。その中で、歳入歳出の改善や事業のスクラップ・アンド・ビルド、他の地方公共団体との連携により、市の財源や人的資源を効率的に活用していくことが求められます。

本市では、政策の各分野において、財政健全化の取組を推進し、持続可能な都市経営をめざします。

基本目標と横断的な視点を図示

【第4節】 地域ごとのめざすまちの姿

本市では、「山間部・丘陵部・平野部」と分類することができる土地形成の特徴を活かしつつ、市内を4つの地域に区分のうえ、都市環境と自然環境の調和を図り、市民が利便性や快適性を享受することができるまちづくりに取り組んできました。

今後についても、第3次から第5次計画における4つの地域区分を継承することとし、地域の特性を活かしてまちの魅力を向上させることにより、交流人口の拡大を図るとともに、地域への誇りと愛着を醸成し、定住志向の高いまちをめざします。



(1) 北西部

公共施設や医療施設、商業施設などの集積が見られるなど、古くから本市の都心としての役割を果たしており、歴史文化遺産や古くからのまちなみが残る地域です。本地域では、今後も都市拠点としての都市機能の充実や交通利便性、防災性の向上、良好な住環境の形成を図るとともに、緑豊かな環境や地域資源を活かしたまちづくりが求められます。

(2) 北部

多くの歴史文化遺産や社寺、豊かな自然環境を有しており、市街地には公営住宅などの住宅団地が多く立地する地域です。本地域では、利便性の高い良好な住宅地の環境を整えるため、駅周辺を中心とした基盤整備の推進及び老朽化が進む住宅団地の再編を行うことに加え、宅地開発などを適切に規制誘導することが求められます。また、豊富な自然資源及び歴史的資源を活用した地域活性化の取組が求められます。

(3) 中部

和泉中央駅周辺には商業・行政などの都市機能、阪和自動車道の岸和田和泉インターチェンジ周辺には産業・商業機能が集積するとともに、公園・緑地などの自然環境が豊かな地域でもあります。本市の新都心として、都市機能や産業機能、また文化施設や大学などが集積する「まなび」の拠点として更なる充実が求められます。また、5つの中学校区を抱える大きな本地域は、計画的に開発されたニュータウンと古くからの市街地が混在しています。転入超過が続く地区と高齢化や転出等により人口減少が進んでいる地区があり、良好な住環境の維持向上に努めるとともに、地域の特色を活かした魅力を創出していくことが求められます。

(4) 南部

自然環境と歴史的資源が豊かで、市内外からの来訪を期待できる施設・地域資源に恵まれた地域です。谷筋には集落や田畑が分布しており、この自然環境を活かした特色ある教育が展開されています。本地域では、山林等の貴重な自然環境・観光資源を保全・活用しつつ、国道170号沿道における土地利用を推進するとともに、地域活性化や移住・定住促進など、人口減少を抑制し、コミュニティを維持するための取組が求められます。

本計画の体系

基本目標		施策
1	居心地よさを実感できる、 住み続けたいと思える まちの実現	①結婚・出産・子育ての希望を叶える仕組みづくり
		②市の魅力づくりと市内外への効果的な情報発信
		③豊かな自然環境の保護・保全
		④充実したインフラ整備
2	安心して自分らしく 過ごすことができる まちの実現	⑤市内企業・産業の活性化
		⑥災害に強いまちづくり
		⑦安心して暮らせるまちづくり
		⑧人権と多様性を尊重するまちづくり
3	互いに助け合い、学び、 市民がまちを創る まちの実現	⑨いつでも頼れる制度整備
		⑩心身の健康づくりの推進
		⑪誰もが健やかな子ども時代を過ごせる環境整備
		⑫世界で活躍できる教育環境づくり
4	いつまでも安定した 住みやすさを提供できる まちの実現	⑬市民自らがまちを愛し、まちの担い手として活躍できる仕組みづくり
		⑭まちの歴史・文化を守り、学び、活かす機会の提供
		⑮持続可能なまちづくりに向けた行財政運営
		⑯公共施設や市有財産の効果的な活用

将来都市像

【基本目標1 居心地よさを実感できる、住みたいと思えるまちの実現】

施策番号1 結婚・出産・子育ての希望を叶える仕組みづくり

- 施策の方針
 - ・ 結婚・出産・子育ての希望を叶えるため、結婚支援や、子育てのきめ細やかな相談体制、支援の充実に取り組みます。
 - ・ 子どもたちが安心して健やかに成長できる保育環境づくりに取り組みます。

- 重要目標達成指標

KGI(重要目標達成指標)	現状値	目標値(R15)
(素案策定時に設定)		

- 関連する個別計画
 - ・ 和泉市こどもまんなか計画

施策番号2 市の魅力づくりと移住・定住の促進

- 施策の方針
 - ・ 来訪促進と交流人口の拡大を図るため、地域資源の魅力を高めるとともに、文化施設等の充実を図ります。
 - ・ 定住・移住を促進し、地域の活性化を図ります。

- 重要目標達成指標

KGI(重要目標達成指標)	現状値	目標値(R15)
(素案策定時に設定)		

- 関連する個別計画
 - ・ 和泉シティプロモーション戦略
 - ・ (仮称)和泉市来訪促進アクションプラン
 - ・ 和泉・久保惣ミュージアムタウン構想

施策番号3 豊かな自然環境の保護・保全

- 施策の方針
 - ・ 豊かな自然環境の保護と、生物多様性の保全に取り組みます。
 - ・ 良好な生活環境を維持するとともに、ごみの減量やリサイクルの推進などの脱炭素化に取り組みます。

- 重要目標達成指標

KGI(重要目標達成指標)	現状値	目標値(R15)
(素案策定時に設定)		

- 関連する個別計画

- ・ 第3次和泉市環境基本計画
- ・ 和泉市一般廃棄物処理基本計画
- ・ 和泉市鳥獣被害防止計画
- ・ 和泉市森林整備計画

施策番号4 充実したインフラ整備

- 施策の方針

- ・ 各地域の拠点に生活利便施設などの都市機能を誘導し、それらの地域間を結ぶ公共交通サービスの充実を図ります。
- ・ 居心地が良く住み続けることができる住環境の形成・誘導や美しい景観づくりを促進します。
- ・ 上下水道などの暮らしを支える生活インフラの整備や適切な維持管理に取り組みます。

- 重要目標達成指標

KGI(重要目標達成指標)	現状値	目標値(R15)
(素案策定時に設定)		

- 関連する個別計画

- ・ 第2次和泉市都市計画マスタープラン
- ・ 和泉市立地適正化計画
- ・ 和泉市地域公共交通計画
- ・ 和泉市交通バリアフリー基本構想
- ・ 和泉市景観計画
- ・ 和泉市水道ビジョン・経営戦略
- ・ 和泉市営住宅長寿命化計画
- ・ 和泉市みどりの基本計画

施策番号5 市内企業・産業の活性化

- 施策の方針
 - ・ 市内企業の振興に取り組み、地域の産業や経済の活性化と市内雇用の拡大につなげます。
 - ・ ふるさと元気寄附事業や、魅力ある地域資源を活かした市内への来訪促進に取り組みます。
 - ・ 農林業の担い手を発掘・育成し、産業として維持・発展できるよう取り組みます。

● 重要目標達成指標

KGI(重要目標達成指標)	現状値	目標値(R15)
(素案策定時に設定)		

- 関連する個別計画
 - ・ 和泉市 6 次産業化戦略プラン
 - ・ 和泉市農業経営基盤強化促進基本構想
 - ・ 和泉農業振興地域整備計画
 - ・ 和泉市酪農近代化計画

【基本目標2 安心して自分らしく過ごすことができるまちの実現】

施策番号6 災害に強いまちづくり

- 施策の方針
 - ・ 災害や危機事象の発災時に適切・迅速に対応できるように整備や計画づくりを進めます。
 - ・ 行政だけでなく、各種団体や市民が主体となって日常から防災の担い手となるような仕組みを構築します。

- 重要目標達成指標

KGI(重要目標達成指標)	現状値	目標値(R15)
(素案策定時に設定)		

- 関連する個別計画
 - ・ 和泉市国土強靱化地域計画
 - ・ 和泉市地域防災計画
 - ・ 和泉市国民保護計画
 - ・ 和泉市上下水道耐震化計画
 - ・ 和泉市耐震改修促進計画
 - ・ 和泉市災害廃棄物処理計画

施策番号7 安心して暮らせるまちづくり

- 施策の方針
 - ・ 行政、市民、各種団体が連携した防犯活動による防犯意識の向上や、防犯体制・防犯環境の整備などにより、安心できるまちづくりに取り組みます。
 - ・ 空き家の適正管理や活用を促進することにより、発生を抑制し、老朽化等によるリスクを発生前に解消します。
 - ・ 市民の安心を守るため、救急・消防体制の維持強化に努めます。

- 重要目標達成指標

KGI(重要目標達成指標)	現状値	目標値(R15)
(素案策定時に設定)		

- 関連する個別計画
 - ・ 和泉市空き家等対策計画

施策番号8 人権と多様性を尊重するまちづくり

- 施策の方針
 - ・ 誰もが差別なく、お互いの人権や多様性を尊重しあえるよう、人権施策や男女共同参画施策、教育・啓発、相談に取り組みます。
 - ・ 市・関係機関・事業者・地域などが連携して、支援が必要な人と支援をつなぎ、地域共生社会の実現に取り組みます。

● 重要目標達成指標

KGI(重要目標達成指標)	現状値	目標値(R15)
(素案策定時に設定)		

- 関連する個別計画
 - ・ 和泉市人権行政基本方針
 - ・ 和泉市人権教育・啓発推進計画
 - ・ 和泉市男女共同参画行動計画(オアシスプラン)
 - ・ 和泉市配偶者等からの暴力の防止及び被害者の支援に関する基本計画(DV 防止基本計画)

施策番号9 いつでも頼れる制度整備

- 施策の方針
 - ・ 日常生活を送る上で生じた困りごとを相談でき、経済的な困窮時には就労支援など、自立につながるように適切な支援を行います。
 - ・ 地域住民や企業、各関係機関の連携強化により行政サービスが一体的に受けられるなど、包括的な支援体制の強化を図ります。

● 重要目標達成指標

KGI(重要目標達成指標)	現状値	目標値(R15)
(素案策定時に設定)		

- 関連する個別計画
 - ・ 第5次和泉市地域福祉基本・活動計画
 - ・ 和泉市障がい福祉計画・和泉市障がい児福祉計画
 - ・ 和泉市障がい者計画

施策番号 10 心身の健康づくりの推進

- 施策の方針
 - ・ 子どもから高齢者まで心身ともに健康を維持できるよう、病気の早期予防・早期発見に取り組めます。
 - ・ 健康に関する相談や、生活習慣改善の支援、スポーツの推進などの健康増進施策に取り組み、必要なときには安心して医療を受けられる体制を整備します。
 - ・ 市民が安心して医療や介護サービスを受けられるよう国民健康保険制度、後期高齢者医療制度及び介護保険制度を適正に運営します。

● 重要目標達成指標

KGI(重要目標達成指標)	現状値	目標値(R15)
(素案策定時に設定)		

- 関連する個別計画
 - ・ 第4次健康都市いずみ21・食育推進計画
 - ・ 和泉市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画
 - ・ 和泉市国民健康保険第4期特定健康診査等実施計画及び第3期データヘルス計画
 - ・ 第2次のちを支える和泉市自殺対策計画
 - ・ 和泉市生涯学習・スポーツ推進計画
 - ・ 和泉市こどもまんなか計画

施策番号 11 誰もが健やかな子ども時代を過ごせる環境整備

- 施策の方針
 - ・ こどもが生まれる前から大人に成長するまで、こどもや家庭への切れ目ない支援体制や貧困・児童虐待などへの予防的支援体制の充実を図るとともに、こどもを地域で育み・見守る環境を整備します。

● 重要目標達成指標

KGI(重要目標達成指標)	現状値	目標値(R15)
(素案策定時に設定)		

- 関連する個別計画
 - ・ 和泉市こどもまんなか計画

【基本目標3 互いに助け合い、学び、市民がまちを創るまちの実現】

施策番号 12 世界で活躍できる教育環境づくり

- 施策の方針
 - ・ 児童生徒が学力の向上をはじめとして、生きる力を身に付け、心身ともに健やかに成長できる環境を提供します。
 - ・ 個別最適・協働的な学びの実現とともに、誰もが安心して生き生きと過ごせる学校づくりに取り組みます。
 - ・ 教育人材の確保や教員の働き方の改善に努め、教育の質の維持向上をめざします。
 - ・ 安全安心で快適な教育環境を整備するとともに、児童生徒にとってよりよい学びの環境を確保します。

- 重要目標達成指標

KGI(重要目標達成指標)	現状値	目標値(R15)
(素案策定時に設定)		

- 関連する個別計画
 - ・ 第4次健康都市いずみ 21・食育推進計画
 - ・ 和泉市教育施設等長寿命化計画

施策番号 13 市民自らがまちを愛し、まちの担い手として活躍できる仕組みづくり

- 施策の方針
 - ・ 市民それぞれが主体性をもって、共助の関係性を育み、まちの担い手となるための意識醸成に取り組みます。
 - ・ 町会、自治会をはじめとした市民活動団体を支援することで、助け合いが生まれるような仕組みづくりに取り組みます。

- 重要目標達成指標

KGI(重要目標達成指標)	現状値	目標値(R15)
(素案策定時に設定)		

- 関連する個別計画
 - ・ 第5次和泉市地域福祉基本・活動計画

施策番号 14 まちの歴史・文化を守り、学び、活かす機会の提供

- 施策の方針
 - ・ 文化財を保全するとともに、歴史や文化を広く伝え、市への愛着の醸成につなげます。
 - ・ 世代問わず学び続け、新たな世界や価値観に触れ合えるように多様な学びの機会を提供します。

● 重要目標達成指標

KGI(重要目標達成指標)	現状値	目標値(R15)
(素案策定時に設定)		

- 関連する個別計画
 - ・ 和泉市生涯学習・スポーツ推進計画

【基本目標4 いつまでも安定した行政サービスを提供できるまちの実現】

施策番号 15 持続可能なまちづくりに向けた行財政運営

- 施策の方針
 - ・ 行政が保有する資産や情報を適正に管理するとともに、公正公平な業務執行を行います。
 - ・ 税収の確保に努めるとともに、安定した財政運営を行います。
 - ・ 積極的なデジタル技術の活用と、変革を生み出す市職員の育成をすすめ、行政手続の効率化や業務改革に繋がります。
 - ・ 複雑化、多様化、さらに広域化している様々な課題に対して、国や府、近隣市町村との連携を強化します。

● 重要目標達成指標

KGI(重要目標達成指標)	現状値	目標値(R15)
(素案策定時に設定)		

● 関連する個別計画

- ・ 和泉市 DX 推進ビジョン
- ・ 和泉市人材育成基本方針
- ・ 和泉市障がいのある職員の活躍推進計画
- ・ 和泉市における女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画

施策番号 16 公共施設や市有財産の効果的な活用

- 施策の方針
 - ・ 公共施設の質と量の最適化、都市機能・コミュニティ・地域の在り方等を念頭に、施設の複合化や民間活力の活用、民間施設の誘導に取り組みます。
 - ・ 未利用地の活用を進めるとともに公共施設の維持管理の最適化を図ります。

● 重要目標達成指標

KGI(重要目標達成指標)	現状値	目標値(R15)
(素案策定時に設定)		

● 関連する個別計画

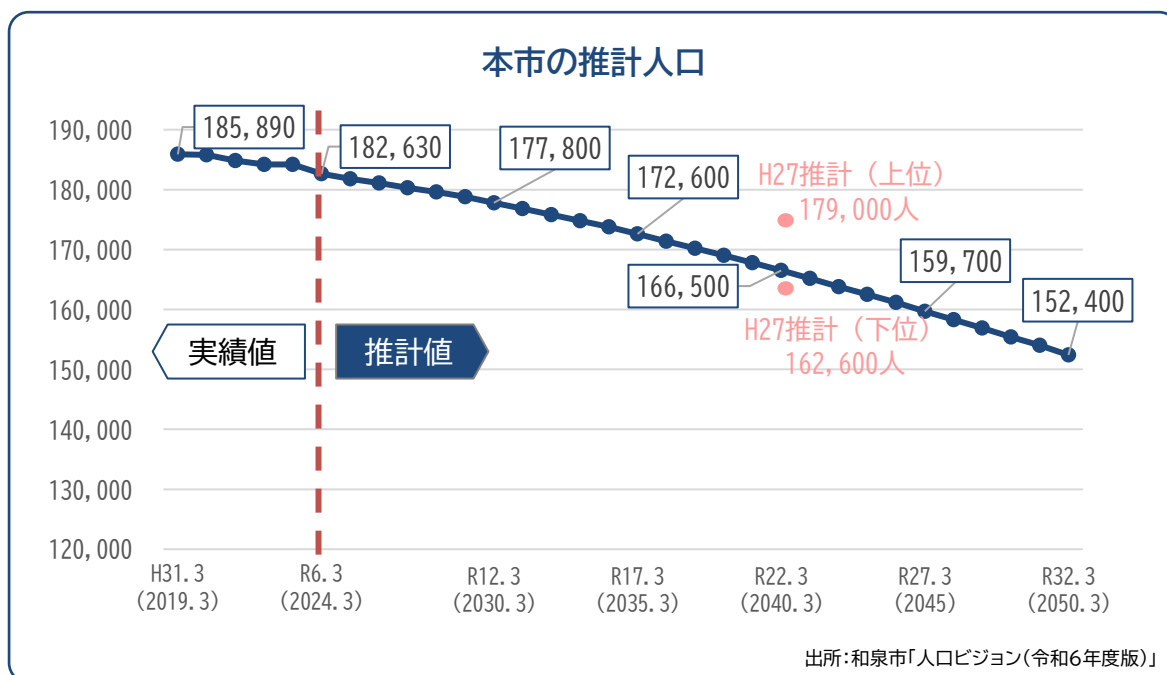
- ・ 和泉市公共施設等総合管理計画
- ・ 公立保育所・公立幼稚園のあり方に基づく整備方針
- ・ (仮称)富秋中学校区等跡地活用ビジョン
- ・ 第1期和泉市個別施設計画
- ・ 公園施設長寿命化計画

- 水道施設等整備計画
- 和泉市営住宅長寿命化計画
- 和泉市立総合医療センター個別施設計画
- 道路舗装個別施設計画
- トンネル個別施設計画
- 橋梁個別施設計画
- 大型カルバート等個別施設計画
- 和泉市教育施設等長寿命化計画
- 和泉市公共下水道ストックマネジメント計画
- 和泉市木材利用基本方針

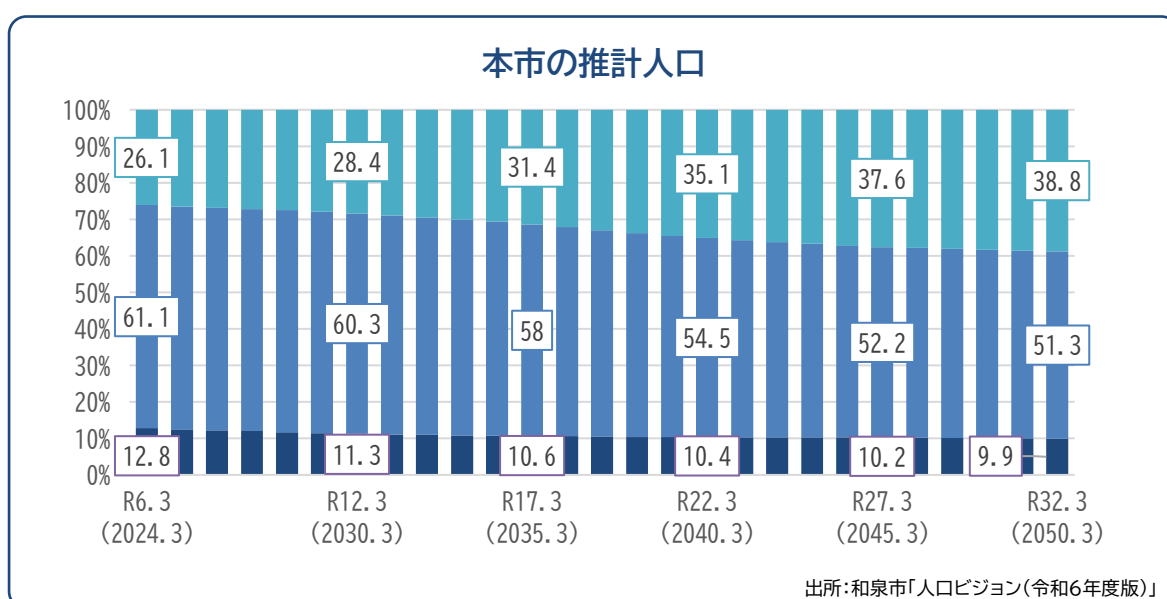
資料編

【第1節】和泉市の人口推計

本市は、「トリヴェール和泉」を中心としたいわゆるニュータウンの開発により、着実に人口を増加させてきました。しかし、昨今の全国的な人口減少の傾向は和泉市においても例外ではなく、令和6年7月に策定した「和泉市人口ビジョン」における人口推計では、令和6年3月時点で約18.5万人の人口は、26年後の令和32年には約15.2万人まで減少する見通しとなっています。



また、本市の人口推計結果を年齢3区分別人口の割合でみると、令和32年時点では人口の約39パーセントが老年人口(65歳以上)になる見通しです。



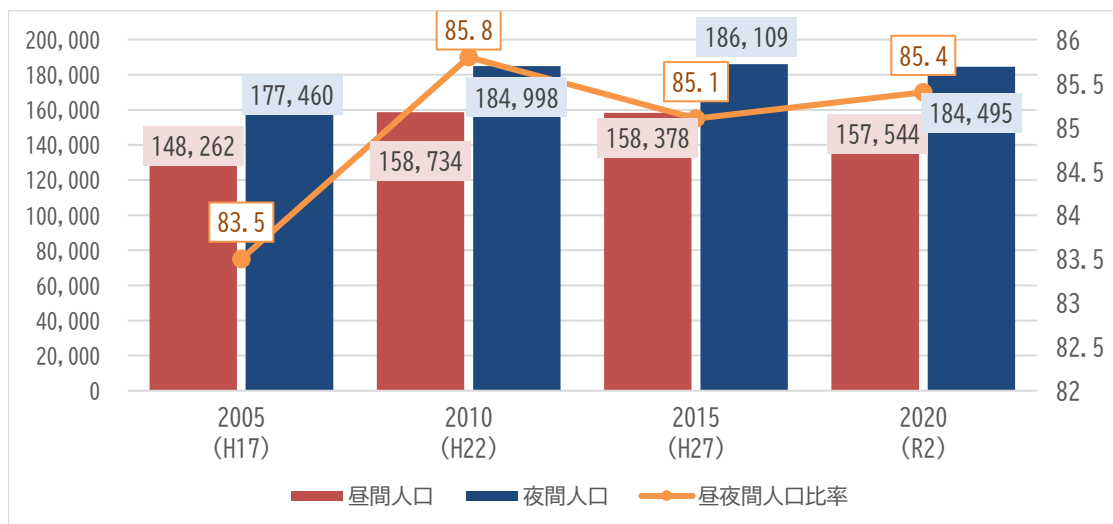
【第2節】和泉市の産業構造

(1) 本市の就業構造の変遷

本市は、昼間人口より夜間人口の多い、いわゆるベッドタウンとしての特徴を有しています。テクノステージ和泉等の産業集積地の整備により、平成17年から平成22年にかけて昼夜間人口比率が大きく上昇しましたが、近年の昼夜間人口比率は85%程度で推移しています。

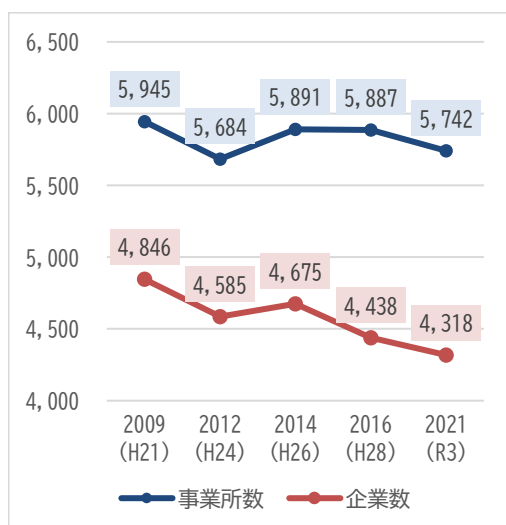
近年は、市内企業数、事業所数ともに減少傾向である一方で、従業者数は上昇を続けています。これは、市内企業及び事業所の大型化が進行し、それら企業及び事業所の従業者数が増加している一方で、中・小規模企業及び事業所の撤退により企業数、事業所数自体は減少しているものと推察されます。

昼間人口・夜間人口、昼夜間人口比率

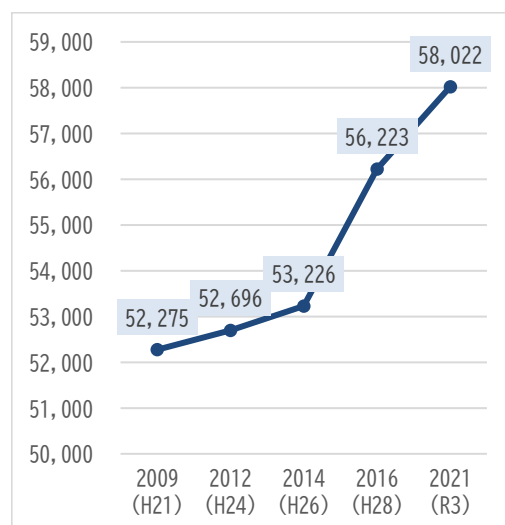


出所：総務省「国勢調査」

企業数・事業所数の推移



従業者数の推移

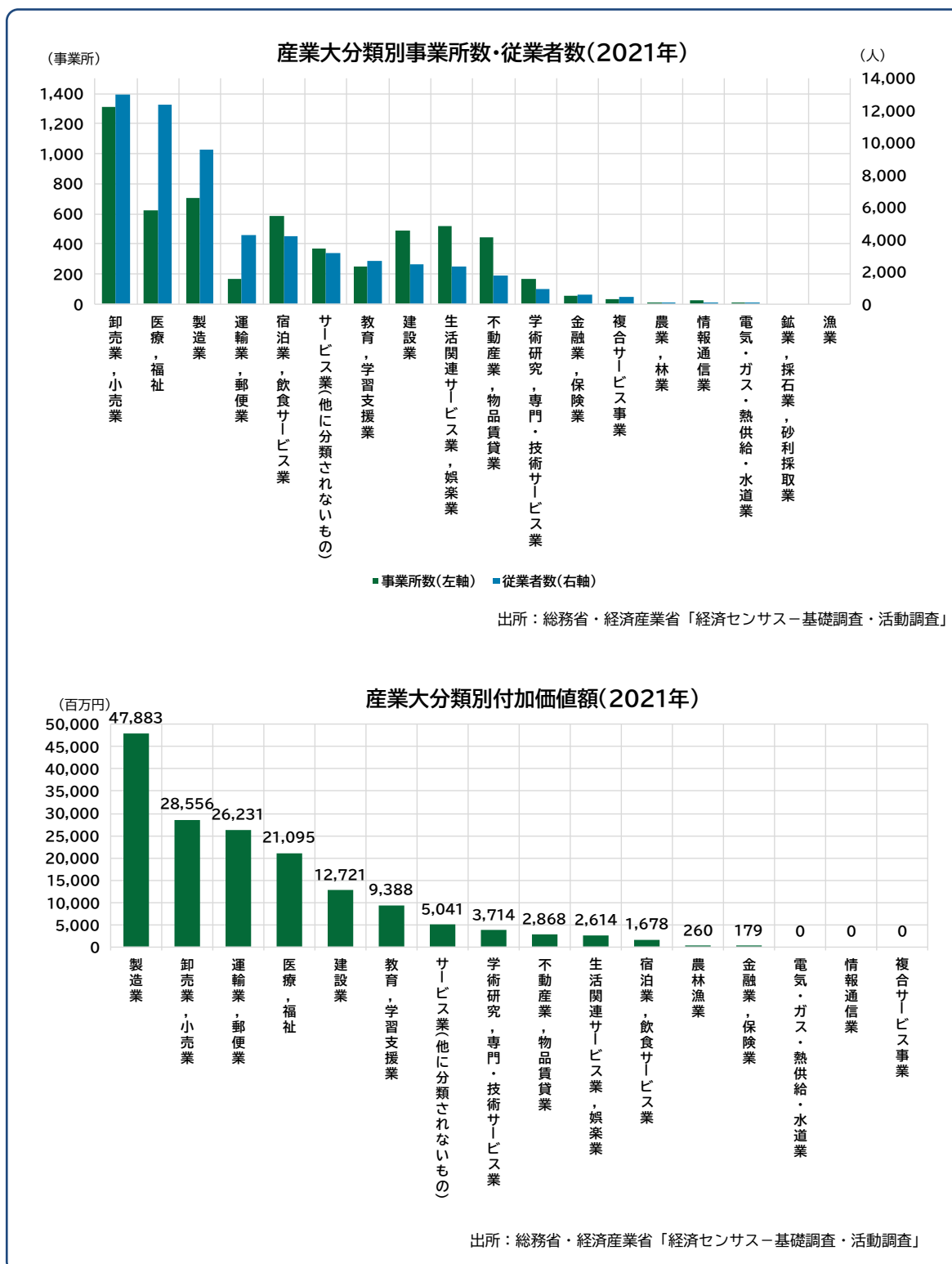


出所：総務省・経済産業省「経済センサス基礎調査・活動調査」

(2) 本市の産業構造

和泉市の産業構造を事業所数及び従業者数の観点で見ると「卸売業・小売業」が事業所数、従業者数ともに最も多くなっています。従業者数については、次いで「医療・福祉」、「製造業」が多くなっており、これらの産業が和泉市の雇用環境を支えているといえます。

また、産業ごとの付加価値額を見ると、本市では製造業の付加価値額が高いことがわかります。



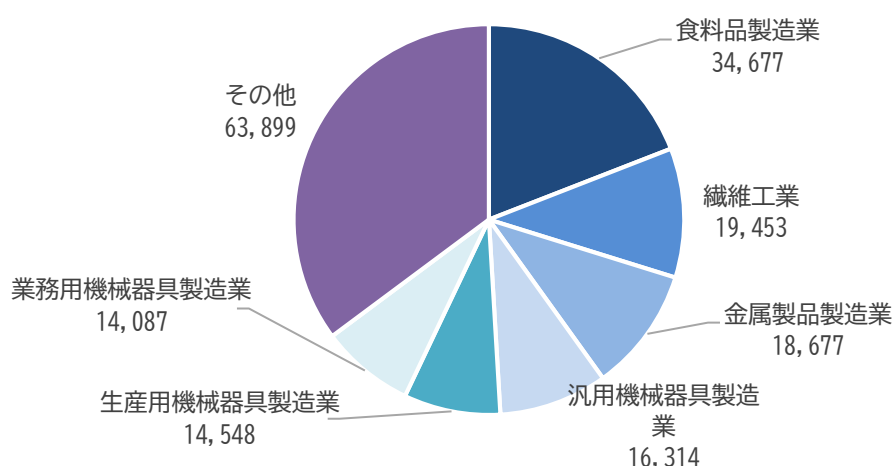
（3）製造業の産業構造

従業員数、事業所数、付加価値額がいずれも多く、和泉市の主要産業といえる製造業について、その出荷額の内訳をみると、「食料品製造業」が最も多く、次いで「繊維工業」、「金属製品製造業」と続いています。製造品出荷額等で見れば、和泉市の製造業は、特定の事業に偏ることなくバランスの良い産業構造となっています。

製造業の出荷額に関する対全国特化係数を見ると、繊維工業の特化係数※が非常に高くなっています。

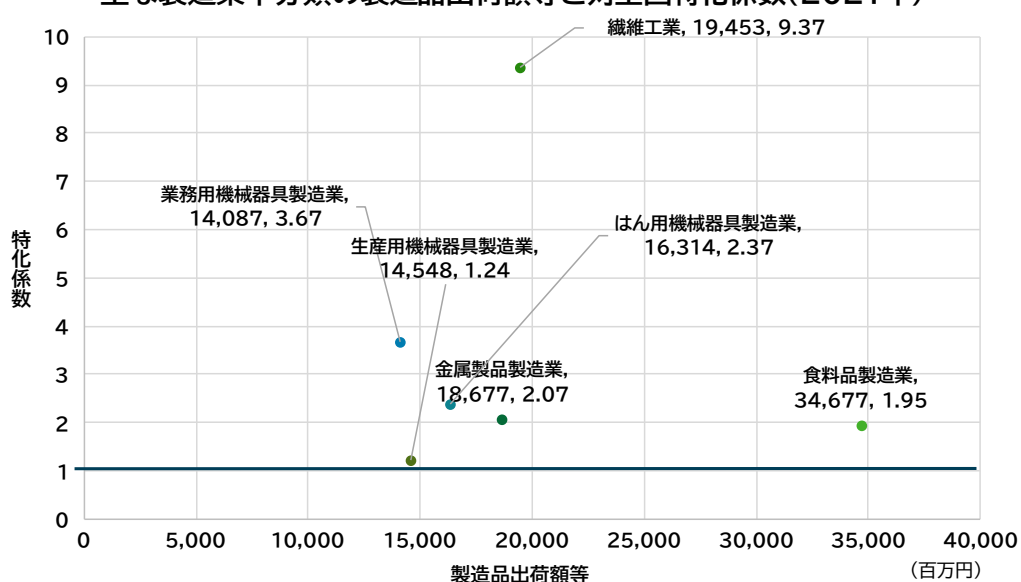
製造品出荷額等（2021年）

（百万円）



出所：総務省・経済産業省「経済センサス基礎調査・活動調査」

主な製造業中分類の製造品出荷額等と対全国特化係数(2021年)



出所：総務省・経済産業省「経済センサス基礎調査・活動調査」

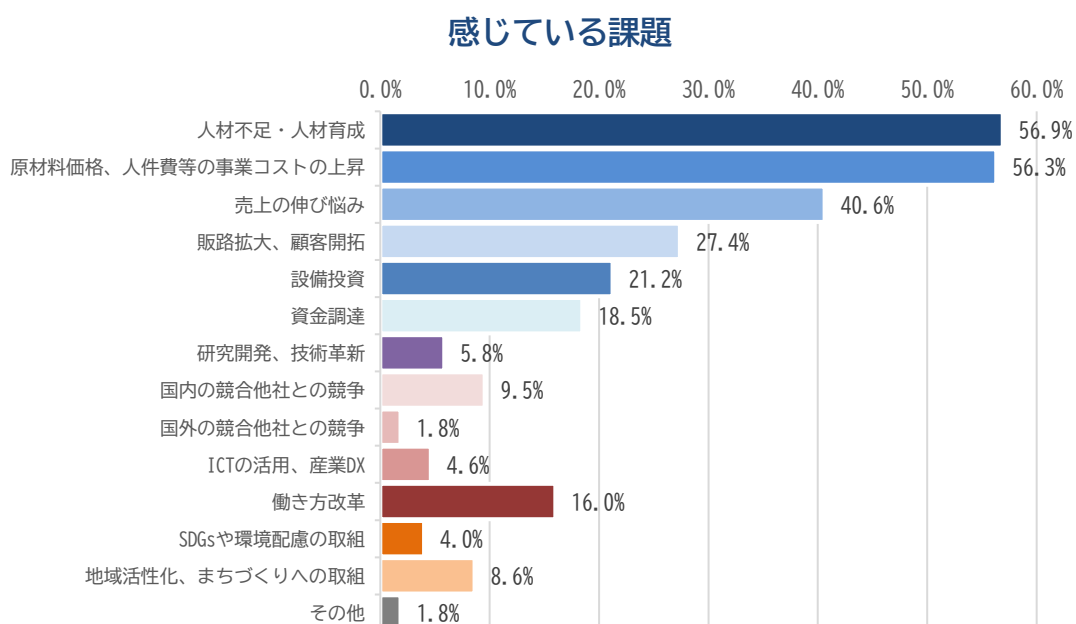
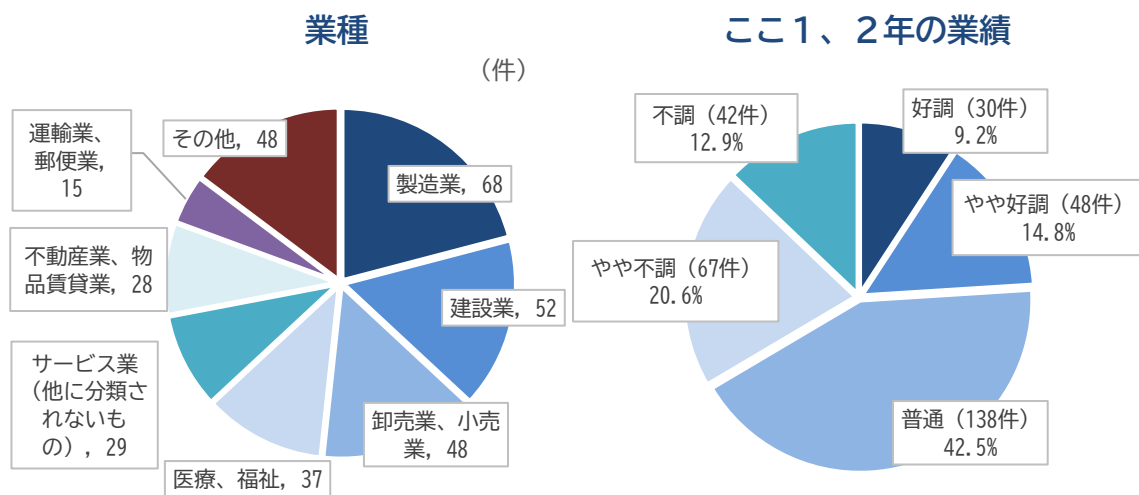
※特化係数：その地域における特定の産業の構成比を、全国の同産業の構成比で割った値。この係数が1より大きい場合、その地域は全国に比べて当該産業に特化していると判断できる

(4) 和泉市内事業者に対するアンケート

和泉市内で事業を営む事業者の現状を把握し、産業・雇用面に関する課題を抽出するため、以下のとおり事業者アンケートを実施しました。回答事業者に対し、現在の業績について何うと、「普通」と回答した事業者が最も多いものの、「好調」又は「やや好調」と回答した事業者より、「不調」又は「やや不調」と回答した事業者の方が多い結果となりました。

また、事業者に対し、現在の経営課題について何うと、「人材不足・人材育成」、「原材料価格、人件費等の事業コストの上昇」の回答が多いという結果となりました。昨今の人口減少による人材不足や物価の高騰は、本市の事業者にとっても課題となっています。

対象者(基準日)	和泉市内の事業者(令和6年9月時点)
調査期間	令和6年9月26日～10月31日
有効回収数	325件



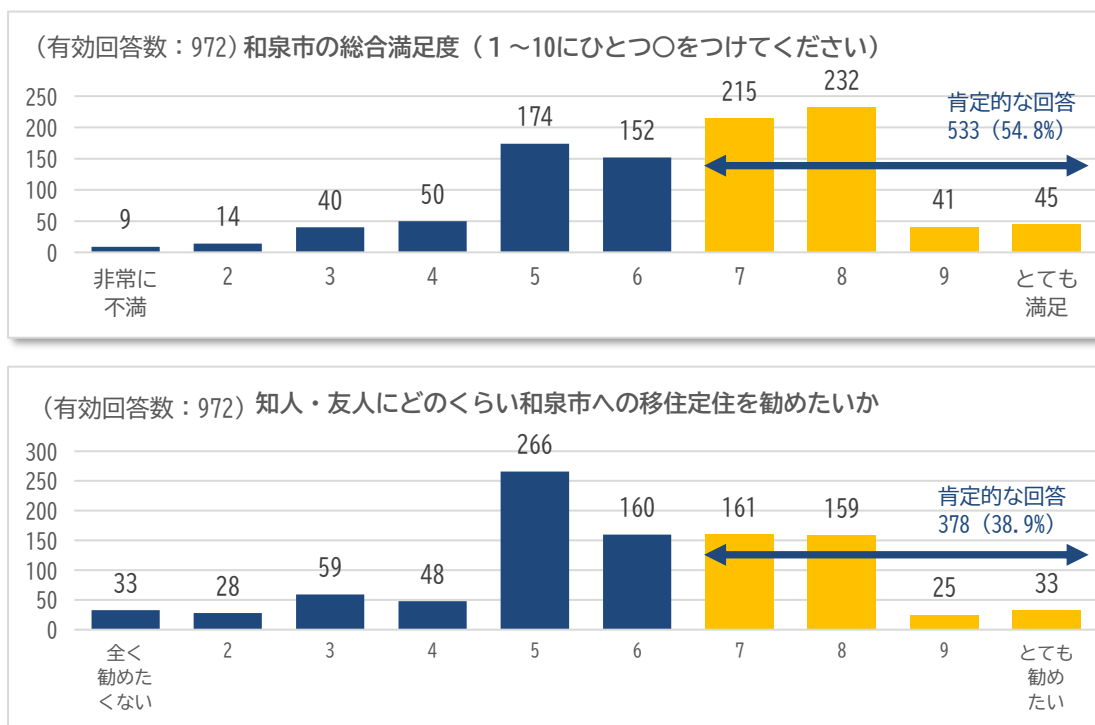
【第3節】市民の意識(市民アンケートの調査結果)

第5次総合計画期間における市民意識の変遷や市民の和泉市に対する思いを把握するため、以下のとおりアンケートを実施しました。

	令和元年度	令和6年度
対象者 (基準日)	本市在住の18歳以上の男女3,000人 (令和元年8月1日現在)	(令和6年9月1日現在)
調査期間	令和元年10月17日～11月15日	令和6年9月17日～10月4日
有効回収数	972人	986人
回収率	32.4%	32.9%

(1) 市民の総合満足度・推奨度

和泉市の総合満足度を10段階評価で市民に伺ったところ、7点以上の肯定的な回答の割合が54.8%と、半数以上の市民が本市に対し好意的な印象を抱いていることがわかりました。一方で、和泉市の推奨度(知人・友人に移住定住を勧めたいか)を10段階評価で伺うと、7点以上の肯定的な回答は38.9%となっており、総合満足度と比較してやや少ない結果となりました。

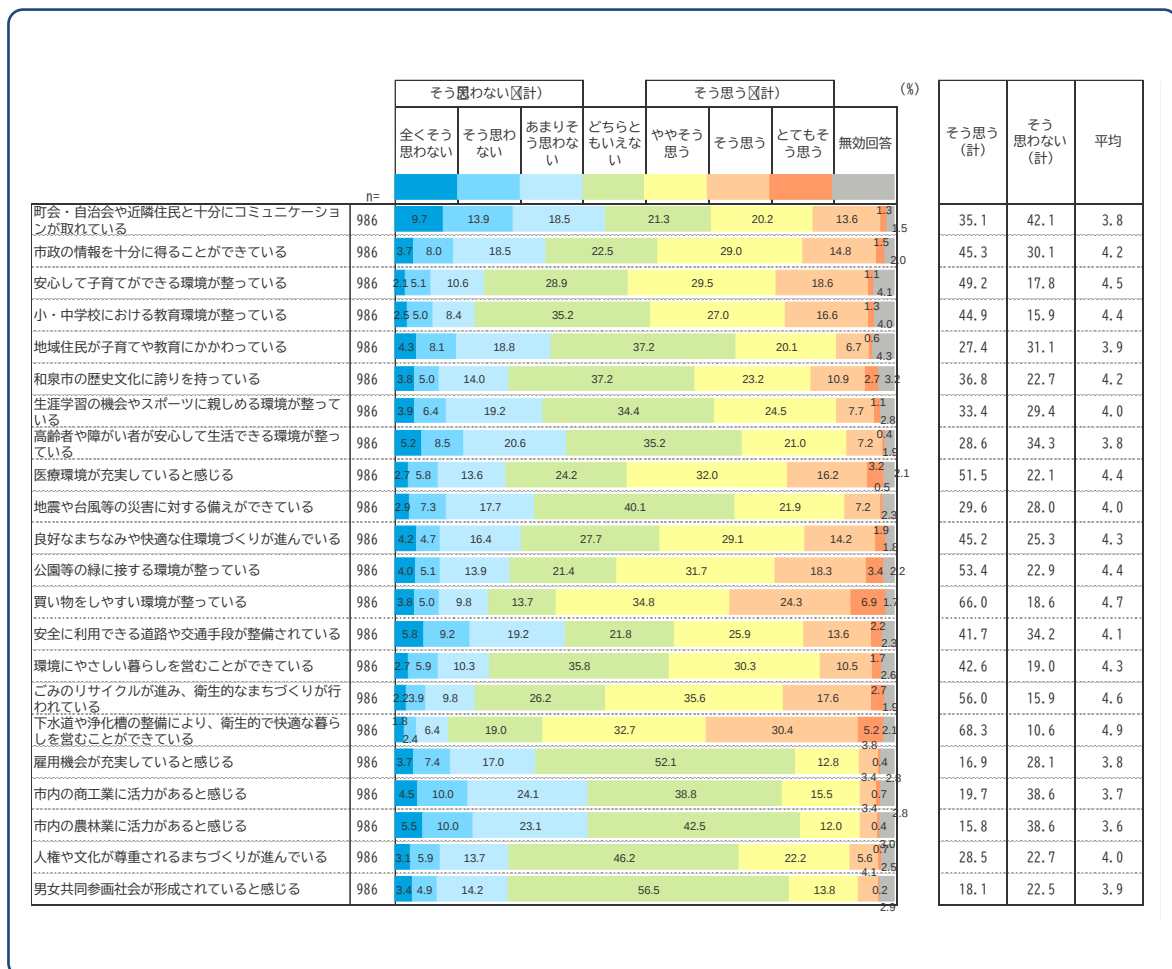


※未回答、無効回答を除く

(2) 市民の実感度

和泉市での日常生活やまちづくりに関する市民の和泉市での日常生活やまちづくりに関連する項目について、好ましい印象を持っているかどうかの実感度を7段階(全くそう思わない:1点～とてもそう思う:7点)で尋ねたところ、概ねの項目で、「あまりそう思わない」以下の回答より、「ややそう思う」以上の回答が多い結果となっており、「買い物しやすい環境」や「下水道や浄化槽の整備による衛生的で快適な暮らし」には特にその傾向が見られます。

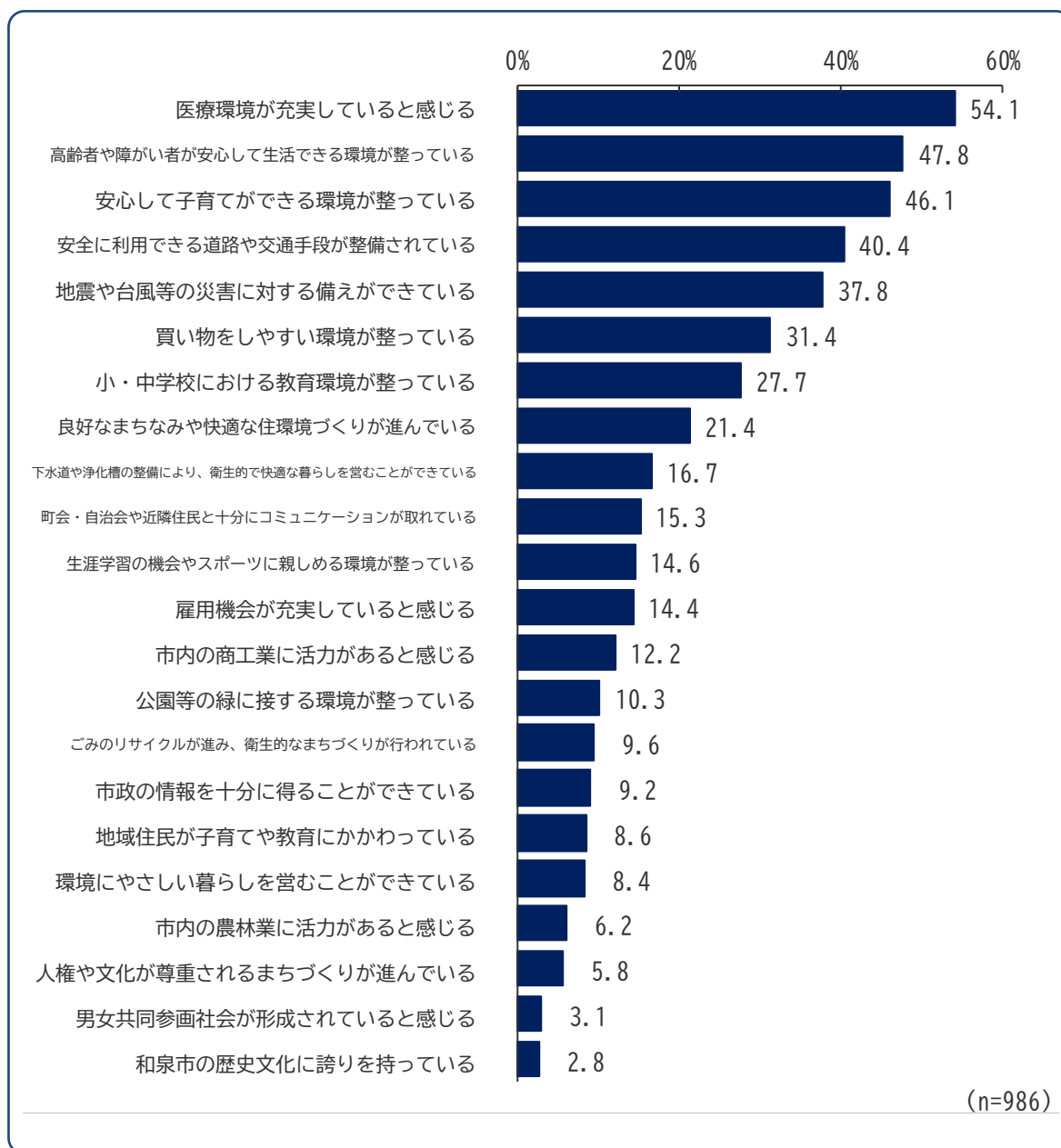
一方で、「町会・自治会や近隣住民とのコミュニケーション」、「市内の商工業の活力」、「市内の農林業の活力」は、やや「あまりそう思わない」以下の回答の割合が「ややそう思う」以上の回答の割合より多くなっています。



（3）施策の重要度

市民が重要と考える施策を把握するため、前記の項目の中から、特に重要な項目を5つまで選択していただいたところ、市民目線で特に重要な項目は、医療環境が最も多く、次いで高齢者や障がい者の生活環境、子育て環境、道路・交通手段、災害対策となりました。

一方で、雇用機会や商工業の活力などの項目の重要度はあまり高くなく、市民の皆様が、和泉市に対してベッドタウンとしての生活環境の良さを求めているということが分かります。

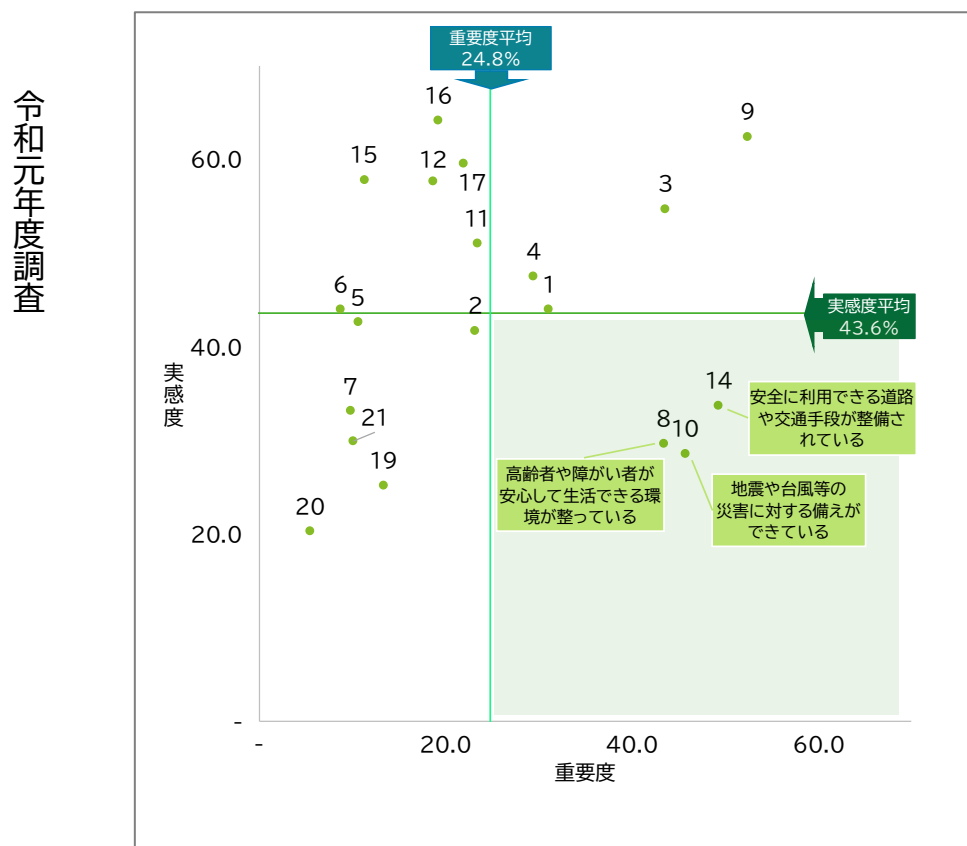


(4) 施策の実感度と重要度の関係

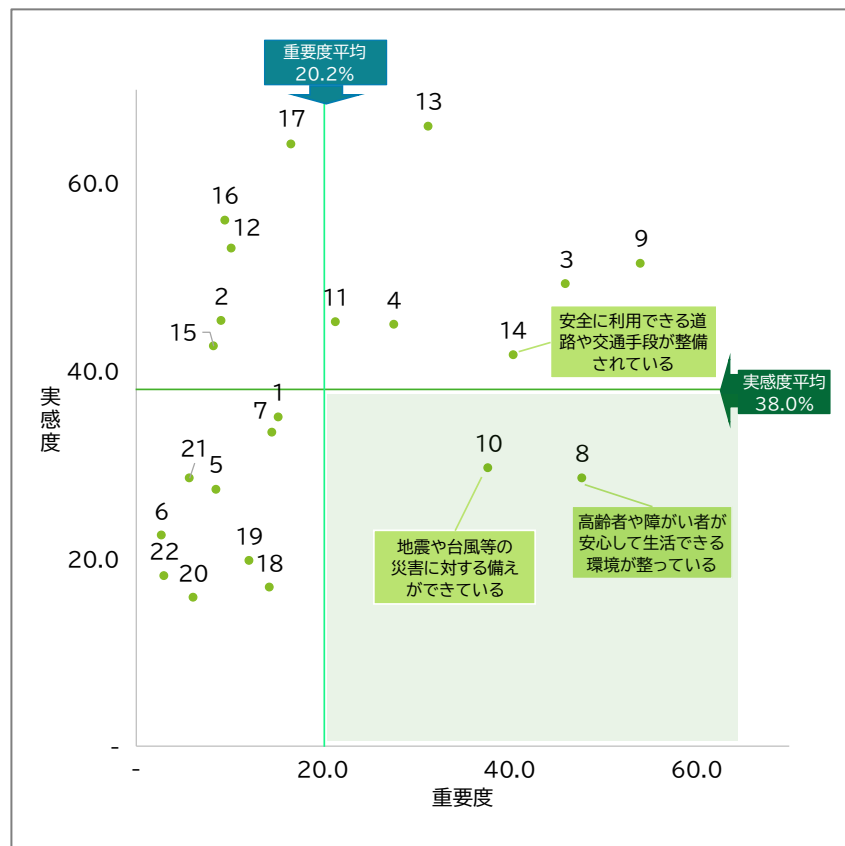
上記(2)、(3)の各項目の実感度と重要度について、令和元年度のアンケートと今回のアンケートを比較した結果として、今回のアンケートにおいて市民の皆様の実感度が低く、重要度が高かった施策は、令和元年度調査と同様、「高齢者や障がい者が安心して生活できる環境が整っている」、「地震や台風等の災害に対する備えができています」となりました。一方で、「安全に利用できる道路や交通手段が整備されている」は、令和元年度調査と比較して実感度が向上しており、第5次総合計画期間内の取り組みが好影響をもたらしたと考えられます。

散布図において、実感度は、「ややそう思う」以上の回答者の割合を、重要度は、当該項目を重要であると選択した回答者の割合を示している。

なお、令和元年度調査においては、実感度調査の選択項目が「そう思う」、「どちらかというと思う」、「どちらかというと思わない」、「そう思わない」、「分からない」の5段階であったのに対し、令和6年度調査では、「とてもそう思う」、「そう思う」、「ややそう思う」、「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」、「まったくそう思わない」の7段階評価となっている。



令和6年度調査



R7 第1回策定委員会（R7.6.6） 総計（骨子案）

番号	項目	重要度		実感度	
		令和元年度 調査	令和6年度 調査	令和元年度 調査	令和6年度 調査
1	町会・自治会や近隣住民と十分にコミュニケーションが取れている	31.1	15.3	44.0	35.1
2	市政の情報を十分に得ることができている	23.2	9.2	41.7	45.3
3	安心して子育てができる環境が整っている	43.6	46.1	54.7	49.2
4	小・中学校における教育環境が整っている	29.5	27.7	47.5	44.9
5	地域住民が子育てや教育にかかわっている	10.6	8.6	42.6	27.4
6	和泉市の歴史文化に誇りを持っている	8.8	2.8	44.0	22.4
7	生涯学習の機会やスポーツに親しめる環境が整っている	9.8	14.6	33.1	33.4
8	高齢者や障がい者が安心して生活できる環境が整っている	43.4	47.8	29.7	28.6
9	医療環境が充実していると感じる	52.4	54.1	62.4	51.5
10	地震や台風等の災害に対する備えができている	45.7	37.8	28.6	29.6
11	良好なまちなみや快適な住環境づくりが進んでいる	23.4	21.4	51.0	45.2
12	公園等の緑に接する環境が整っている	18.7	10.3	57.7	53.0
13	買い物をしやすい環境が整っている	未調査	31.4	未調査	66.0
14	安全に利用できる道路や交通手段が整備されている	49.3	40.4	33.7	41.7
15	環境にやさしい暮らしを営むことができている	11.3	8.4	57.8	42.6
16	ごみのリサイクルが進み、衛生的なまちづくりが行われている	19.3	9.6	64.1	56.0
17	下水道や浄化槽の整備により、衛生的で快適な暮らしを営むことができている	22.0	16.7	59.6	64.2
18	雇用機会が充実していると感じる	未調査	14.4	未調査	16.9
19	市内の商工業に活力があると感じる	13.4	12.2	25.2	19.7
20	市内の農林業に活力があると感じる	5.5	6.2	20.3	15.8
21	人権や文化が尊重されるまちづくりが進んでいる	10.1	5.8	29.9	28.5
22	男女共同参画社会が形成されていると感じる	未調査	3.1	未調査	18.1